



## 「北橋町の 竹林公園づくり」

北橋地区竹の里づくり協議会 会長 塩谷 博さん

発表事例

Case.1

北橋地区竹の里づくり協議会では、5月12日に開園した「北橋竹林公園」を管理しており、現在、会員40名、特別会員5名、法人会員1社で活動しています。

まず、協議会設立の背景を説明します。北橋地区では「竹文化の創造」を目指して、長い間多様な活動を進めてきました。竹工芸を通じて県内外で活躍している「北橋竹親会」をはじめ「八崎二区土曜会」「八崎竹のこ会」など多くの団体が竹をテーマに精力的に活動しています。更に地域づくり事業の一環として「竹の里フェスティバル」を開催するなど事業を充実させてきました。その中であって、「竹の里」を自称するには「シンボルとなる拠点」が必要であろうということで、竹林公園の整備を行うことになりました。

協議会の目的は、1つ目に竹文化の創造であり、2つ目は環境保全や経済活動の活性化です。3つ目は竹林公園を拠点に、その趣旨を各地域に広めること、4つ目としては単なる竹林整備ではなく、北橋全体の活性化、そして特色を作って、誰もが自慢できる故郷づくりを進めることです。北橋地区では、37年前に発足した「北橋のよい子を育てる会」をはじめ、人づくりや地域の発展、地域コミュニティの形成のために様々な活動をしていますので、これら他の団体と連携して取り組みたいと思っています。

竹林公園の運営課題について考えていきます。最大の課題は、竹の生命力に負けない労働力の継続的な確保です。竹林というのは一旦手を入れたら、継続的に手入れをしなければもとの竹藪よりもっと酷い状態になってしまいま

す。しかも、1年に2回3回と手入れをしなければなりません。その労働力をどう確保するかということが一番大きな課題です。そのためには、協議会の会員を確保することが必要です。地域の理解者、広域的な理解者を確保しながら、進めていければと思っています。

今後の取り組みとしては、まず、50アールの敷地のうち約半分を整備しましたが、第二次工事として、残りの整備を進めたいと考えております。そして、竹林公園と銘打ったからには、適切に管理し、安全で開放できるような施設として維持したいと思っています。竹を活かした極めて特色のあるあずまやを中心に、京都の嵯峨野に見るような、竹林のやさしさを感じられ竹林浴を楽しめるような親しみのある公園として整備し、渋川全体の観光ルートのひとつとして位置づけられればありがたいと思っています。また、今後竹林公園を基盤として、竹の多目的な活用を図りたいと考えています。ひとつは、竹の子の収穫と販売、竹の子の加工等です。今日の交流会で竹の実まんじゅうを用意していますが、新しい渋川の名産として売り出しています。そのほか、竹製品や竹炭や竹チップ等、様々な利用方法があると思っています。

最後にまとめですが、竹林公園はひとつの夢です。竹林の整備は、太田・高山・沼田等、各地の先輩の皆さんが取り組んでいますが、県内で竹林公園と銘打ったところはどこにもございません。肩の荷が非常に重く感じていますが、一旦始めたからには強い使命感と責任感をもって、夢の実現に向け絶え間なく努力をしていきたいと思っています。



## 「赤城町 宮田ほたるの里づくり」

宮田ほたるの里を守る会 代表 星野 次夫さん

発表事例

Case.2

※星野さんは活動内容を映像にまとめ、地域の小中学生を巻き込んだ様々な活動の様子をプロ顔負けの編集技術でご紹介くださいました。

ここでは、活動の概要を紹介します。

### 活動の目的

宮田のホタルは「無くしてはいけない、いなくなっ  
てはいけない」地域の財産。赤城地区の自然・歴史・  
文化を守り、子ども達に伝えること。



### 主な活動内容

- ✓ **ホタルの住める農業用水路を中心とした周辺環境の整備**
  - ・農業用水路上流から下流約400mでホタルの生態に合わせた整備を年6回以上実施
  - ・散策道のバリアフリー化（車イス使用可能）
  - ・農道・市道の下草刈り、植木・植物の手入れ、ゴミ・空き缶拾い年6回（子ども達参加2回を含む）
  - ・宮田北地区でカワニナ養殖場の下草刈り、水路整備、エサやり実施
- ✓ **ホタルの生態系調査・体験学習会の実施**
  - ・4月下旬より上陸調査や飛翔数の確認調査（～10月下旬）
  - ・4月下旬から7月末まで毎夜交代で鑑賞者の案内やホタルの説明、パトロールを実施
  - ・小中高校生含む体験学習会やカワニナ捕獲・放流や水質調査、水生生物を調査研究
- ✓ **体験を主体とした子ども達に対する環境学習の実施**
  - ・町ふれあいまつり等で子ども達と一緒に事例発表を実施
  - ・子ども会員を加え、世代・職業を超え、地域が一体となった活動により地域の連携を深めている
  - ・学校での講演会や総合学習において赤城地区の自然やホタルの棲める環境について等、環境問題について学習の機会を設けている

### 星野会長から一言

今後の活動の中で大きな課題が残されております。それは、少子高齢化の問題です。現在、子ども達も何人かいますが、さらに輪を広げていかなければならないと思っています。今年で18年の活動になりますが、今後のほたるの里を通じて、自然との調和を図りながら、素晴らしい環境・地域づくりに貢献し、次の世代に引き継いでいきたいと思っています。